令和５年度 紫原小学校「学校だより」（NO.4）

つくしんぼ

教育目標　夢と希望を持ち「自立」した紫原の子供を育てる
～あいさつ・掃除が確実にできる子供の育成～

発行日　令和５年７月19日

Tel 251－1323　http://keinet.com/murasas

七夕の願いとともに！

校長　川畑　敏彦

「ひらがながきれいに書けますように」「まほうつかいになりたい」「サッカー日本代表選手になれますように」「音楽部のみんなと九州大会、全国大会に行けますように」「ずっと友達といっしょにいられますように」「家族と過ごす時間がいっぱいふえますように」これは，子供たちが短冊に書いた願い事の一部です。こんなにも素直に，夢のある願い事を書ける子供たちのすばらしさに改めて感動しました。

1学期，子供たちは様々な経験を重ね，様々な学びを深めながら成長してきました。いよいよ子供たちが楽しみにしている夏休みがやってきます。夏休みは健康や安全に十分に気を付けて，元気に過ごしてほしいと思います。

私が夏休みに思い出されるのは，毎年1週間ほど宮崎の親戚の家に泊りに行ったことです。その家は牛を飼っていて，牛の世話をするのが日課でした。朝のえさやりから，牛舎の掃除などたくさんの仕事がありました。初めて経験することや牛舎の匂いになれなくて大変でしたが，やっていくうちにコツを覚え，牛の可愛さも相まってそれなりに楽しみながら行っていました。中でも，一番の楽しみは，近くの川での川遊びでした。初めてアユ釣りをしたことは忘れられません。毛バリを使ってアユを釣るのですが，どうしてこんな針でアユが釣れるのか不思議でなりませんでした。釣りに飽きると手長エビ捕りです。水中メガネが曇らないようにヨモギの葉っぱをこすりつけて潜ります。岩場にいるエビをつかまえるのが楽しくて，夢中になって捕りました。その後は，岩場でアユとエビを焼いて食べる。これがまた格別で，その味は今でも忘れられません。しかし，楽しいことばかりではありませんでした。夜になると急に不安が襲ってきます。いつもと違う場所，違う人，違う布団やマクラ･･･。寝る前に何とも言えない寂しい気持ちや不安に襲われたものです。「もう絶対に明日は帰ろう。」と思いながら寝るのですが，朝になるとすっかり忘れていることも多かったです。今でも夏のムッとした暑さや涼しげに駆け抜ける風，魚の焼ける匂い，牛の匂いを嗅ぐと，そのころの様子が思い出されます。

夏休みは，子供たちが普段できない様々な体験活動ができる良い機会です。子供たちが様々な体験をすることで，学んだり考えたりすることを大切にしてほしいと思います。自然体験で，不思議や興味を持つことや，多くの人との関わりの中でコミュニケーション能力や協調性を養うなど，体験することは子供を大きく成長させます。

様々な経験をすることにより，子供たちの考えや夢も変わってくるかもしれません。変わってもいいと思います。やりたいことがいっぱい見つかること，そのやりたいことを実現しようとする気持ちが大切なのではないかと思います。

冒頭の願い事ですが，自分ならどんな願い事を短冊に書くだろうかと考えましたが，現実的なことばかり思い浮かんできて，子供たちのように夢を語れるのが羨ましく思います。

3年生の子供が書いた短冊に，こんな願いも見つけました。

「病気やけがなく，みんなしあわせになる小学校になりますように。」

私もこう書きたいと思います。